



韓国と日本、そして 私と世界をつなげるJET

長崎県企画振興部国際課国際交流員

유진

ユジン
柳 ジン

「ユジンというと、ドラマ『フコソナ』のユジンですか？」

長崎に来て、自己紹介をする度に聞いた話です。数えた訳ではありませんが、これまで優に50回は聞かれたと思います。

留学生の時には、「カンコクから来ました」というと、ある人からは「え？カンコクってどこ？」と言い返されたこともありましたが、2008年、長崎に来た時には状況がガラリと変わっていました。ここ数年、日本と韓国の関係をぐっと縮めた「韓流ブーム」の影響もあるわけですが、私の名前を言うだけで韓国ドラマ『冬のソナタ』のヒロインの名前「ユジン」と同じではないかと微笑みながら言ってくれる方が結構います。そのたびに、日本と韓国の関係がこれほどまで進歩していたのかと驚き、ただ嬉しく感心するばかりです。

私は大学で日本語・日本文学を専攻し、大学3年生の時には札幌学院大学の英米文学科で1年間交換留学生として勉強しました。大学卒業後約2年間、日本の製薬会社で働いた後、韓国の通訳・翻訳大学院で日本語・韓国語の通訳と翻訳を専攻しました。卒業後は、ソウルで同時通訳・逐次通訳や翻訳などの仕事をしました。そして2008年4月から長崎県国際課で国際交流員として勤務することとなり毎日奮闘しています。

JETになってから、韓国についてよくわからない日本の方々とにかく韓国のことを知らせたいと思いました。それで、色々と母国のことを調べて勉強したら、その成果もあり、日本の方々に韓

国の事をご紹介出来ましたが、不思議なことにこれまで当たり前だと思っていた母国のことを自分がより深く理解できるようにもなりました。逆に日本の他県にいる知人や韓国にいる友達には長崎のことを紹介するようになり、長崎についてもいろんなことがわかるようになりました。

例えば、これまであまりにも身近な存在なので深く考えたことのないキムチについては、小学校の講座のために勉強するうちにその歴史や種類について語れるようにまでなりました。また、横浜に住んでいる友達のところに遊びに行ったときには、「さっき駅前のスーパーで長崎のイチゴ『さちのか』を見つけたよ。それ、本当に美味しいから是非食べてみて！」と何故か気合いを入れて友達に長崎県産のイチゴを勧めている自分に気づいては驚いたりもしました。

私が長崎に来る前、数年前に青森県でJETとして活躍した私の友達は、「JETってね、国際交流の仕事をするために日本へ行ったのに、実際は自



韓国の伝統衣装の「ハンボク」の紹介や着付けを行った小学校での国際理解講座



韓国料理パーティーのために作った韓国料理



長崎で習い始めたお琴を演奏会で披露(右から二番目が私)

韓国の釜山で起きたこの事故で、日本人と韓国人合わせて15人が死亡し、1人が大怪我をしました。日本人被害者の大部分が長崎県雲仙市の方でした。

当時、夜の12時に県庁から電話が入って、次の日、私も急遽釜山に向かい、数日間病院のICU（集中治療

室）の中で通訳をしました。分が『国際化』して帰国するんだよ」と言ってくれました。最初は漠然とした話なのでさっぱりわかりませんでした。仕事をしているうちに少しその意味がわかってきました。

これまで「国際交流員」として仕事をしながら、私は世界の色々な国のJETの仲間と出会えました。アメリカ、イギリス、アイルランド、カナダ、オーストラリア、フランス、ロシア、ドイツ、中国、オランダ、南アフリカ共和国などなど。そして、これまで単なる世界地図の中にある国に過ぎなかったそれぞれの国が私にも身近に感じられるようになりました。

フランス人の友達とは片言のフランス語でしゃべったこともあります。高校の時、第2外国語で3年間勉強しましたが、今はいくつかの単語しか覚えていません。でも、片言ながら「フランス人と直接フランス語で話せるなんて、凄い！」と我ながら初めての経験に感激しました。もちろん、その友達と話す時に主に使ったのは日本語ではありません。イギリス人の友達に説明を聞いて、初めてイギリスの国旗に盛り込まれている意味がわかるようになりました。

JETではなかったら、このように多くの国から来た友達を作ることではできなかったと思います。

これはまさに「真の国際人」になっていくというJETならではの素晴らしい経験ではないでしょうか。

素晴らしい経験の多い中、一生忘れられないことも多々あります。最も記憶に残っているのは、2009年11月にあった「釜山室内射撃場火災事故」です。

通訳・翻訳を専攻し、これまで様々な場面で通訳をしてきましたが、このように生死が行き交う現場で通訳することになるとは、一度も想像したことがありませんでした。しかし、その時はまさに命に関わる通訳であって、自分が誰かに役立つことができるという思いが強かったせいか、自分でも一つ成長できたと思います。

今も被害者の方々を思うと心が痛みますが、この事故は私にも一生忘れられない出来事として残ると思います。

最初に日本に来た時にはJETが「国レベルの交流のために」存在するものだとばかり思っていました。しかし、今は、「JETは、国レベルの交流だけではなく、自分と世界との交流が出来、つなげてくれる仕事」と思っています。もちろん、自分を成長させてくれる仕事だとも思います。

このように素晴らしい勉強と交流ができる仕事が他にあるとは今の私には想像できません。



유진

大韓民国ソウル出身。大学卒業後、山之内製薬会社(株)（現在、アステラス製薬）韓国法人で2年間働いた後、韓国外国語大学の通訳・翻訳大学院で日韓通訳・翻訳を専攻し、卒業後、フリーランスとしてソウルで活動。09年韓国人JET参加者代表、09～10年には韓国人SGLを担当し、09年にはCLAIRのJET広報DVDに出演したこともあります。最近スキューバダイビングを始めて、長崎の海の世界に惚れています。



한국과 일본, 그리고 나와 세계를 이어주는 JET

나가사키현 기획진흥부 국제과 국제교류원 유 진

“유진이라면, 그 드라마 ‘겨울 소나타’에 나오는 유진인가요?”

나가사키에 와서 제가 자기소개를 할 때마다 들은 말입니다. 세어 본 적은 없지만, 지금까지 50 번은 속히 들어본 것 같습니다.

유학생 시절에는 “한국에서 왔어요”라고 하면 “응? 한국이 어디야?”라고 하는 사람도 있었지만, 2008년 나가사키에 왔을 때는 상황이 완전히 바뀌어 있었습니다. 최근 몇 년간 일본과 한국의 관계를 급속히 가깝게 해 준 ‘환류’의 영향도 있겠지만, 제 이름을 듣기만 해도 한국 드라마 ‘겨울 소나타’의 여주인공 이름인 ‘유진’과 같은 이름이 아니냐며 웃는 얼굴로 물어보시는 분들이 많습니다. 그 때마다 일본과 한국의 관계가 이만큼이나 가까워졌나 싶어서 기쁘고 놀랄 따름입니다.

저는 대학교에서 일어일문학을 전공하고, 대학교 3학년 때에는 삿포로학원대학 영미문학과에서 1년간 교환학생으로 공부를 했습니다. 대학교 졸업 후에는 약 2년간, 일본의 제약회사에서 근무한 후, 한국의 통번역대학원에서 일본어·한국어 통역과 번역을 전공하였습니다. 졸업 후에는 서울에서 동시통역·순차통역과 번역 등의 일을 했습니다. 그리고 2008년 4월부터 나가사키현 국제과에서 국제교류원으로서 일하고 있습니다.

JET가 된 뒤, 한국에 대해서 잘 모르는 일본인들에게 어떻게든 한국에 대해서 많이 알려주려 한국에 대해서 이것저것 찾아보고 공부를 한 덕에 일본 사람들에게 한국에 대해서 자신 있게 소개할 수 있게 되었습니다만, 신기한 것은 이와 동시에 지금까지 당연하게만 생각해 왔던 한국의 여러 가지에 대해서 저 스스로도 깊이 이해할 수 있게 되었다는 것입니다. 반대로 일본의 다른 현이나 한국에 있는 친구들에게는 나가사키에 대해서 많이 홍보하게 되면서 나가사키에 관해서도 자세히 알게 되었습니다.

예를 들면, 지금까지는 너무나도 가까운 존재였기에 깊이 생각해 본 적이 없던 김치에 대해서 초등학교 강좌를 준비하면서 그 역사와 종류에 대해서 알게 되었습니다. 또, 요코하마에 사는 친구에게 놀러 가서는 “아까 역 앞 슈퍼마켓에 나가사키 딸기 ‘사치노카’가 있더라. 그거 맛있으니까 꼭 먹어봐!”라며 웬지 친구에게 나가사키현의 딸기를 열심히 추천하고 있는 스스로의 모습을 깨닫고는 놀라기도 했습니다.

저보다 몇 년 앞서 아오모리현에서 JET로 활약했던 친구는 제가 나가사키에 오기 전, 저에게 “JET는 말야, 국제교류 업무를 하러 일본에 가지만, 실제로는 스스로가 ‘국제화’가 되어서 돌아오게 돼”라고 했습니다. 처음에는 너무 막연한 말이라서 무슨 말인지 이해할 수 없었지만, 이 일을 하면서 조금은 그 의미를 알게 되었습니다.

지금까지 ‘국제교류원’이라는 업무를 하면서 저는 세계 각국에서 온 JET 친구들을 사귄 수 있었습니다. 미국, 영국, 아일랜드, 캐나다, 호주, 프랑스, 러시아, 독일, 중국, 네덜란드, 남아프리카공화국 등등. 그리고 지금까지 단순히 세계 지도에 있는 나라에 지나지 않았던 그 나라들이 갑자기 매우 친근하게 느껴졌습니다.

프랑스인인 친구와는 어쉴픈 프랑스로 대화할 한 적도 있습니다. 고등학교 때, 제 2외국어로 3년 동안 배웠지만 지금은 단어 몇 개만 기억하고 있는 정도입니다. 하지만, 어설픈 해도 ‘내가 프랑스인과 직접 프랑스로 대화를 하다니, 이거 굉장한걸!’이라며 첫 경험에 저 스스로 무척 감격했습니다. 물론, 그 친구와의 대부분의 대화는 일본어였습니다만, 영국인 친구의 설명을 듣고는 처음으로 영국 국기에 담겨있는 의미를 알게 되었습니다.

JET가 아니었다면 이렇게 많은 나라에서 온 친구들을 사귄 수 없었을 것입니다. 이것이야말로 ‘진정한 국제인’이 되어가는 JET만이 맞볼 수 있는 훌륭한 경험이 아닐까요?

이렇게 훌륭한 경험도 많지만, 반면 평생 잊을 수 없는 일들도 있습니다. 지금까지 가장 기억에 남는 일은 2009년 11월에 있었던 ‘부산 실내사격장 화재 사고’입니다.

통역·번역을 전공하고 지금까지 다양한 통역을 해 왔지만, 이와 같이 생사가 오가는 현장에서 제가 통역을 하게 되리라고는 단 한 번도 상상해 본 적이 없었습니다. 하지만, 그 때 당시에는 생명과 직결되는 통역이었고, 제가 누군가에게 직접 도움이 된다는 생각이 강해서 그랬는지 저 스스로도 한층 성장할 수 있었습니다.

지금도 피해자들을 생각하면 마음이 아프지만, 이 사고는 저에게도 평생 잊을 수 없는 일입니다.

처음에 JET로 일본에 왔을 때, 저는 JET가 ‘국가 간 교류를 위해서’ 존재한다고만 생각했습니다. 하지만 지금은 ‘JET는 국가 간 교류뿐만 아니라, 나와 세계를 이어주고 교류할 수 있게 해주는 직업’이라고 생각합니다. 물론 자기 자신을 성장시켜주는 일이라고도 생각합니다.

이처럼 훌륭한 공부와 교류가 가능한 직업이 JET 말고 또 있을까요?

韓国語



JET参加者の「その後」

～Interview with Susan Iwamoto～

(財)自治体国際化協会業務部

外国語指導助手や国際交流員として活躍してくれたJET参加者たちは、その任期満了後、どのような活躍をしているのか? 「その後」をインタビューしてきました。



Susan Iwamoto

異文化研修コンサルタント/トレーナー。米国フィラデルフィア出身。5～9歳を日本で過ごす。マサチューセッツ大学政治学部卒業後、JETプログラムで来日し、1年間埼玉県栗橋町（現久喜市）でALTとして従事。1996年に再来日。1998～2004年、キャノンの人事本部に勤務。2000年から様々なNHKラジオ・テレビ番組に出演（2011年「実践ビジネス英語」出演中）。現在インテックジャパンにて主に企業の異文化研修コンサルタント/トレーナーとして活躍している。

～自己紹介をお願いします～

父の仕事の関係で5歳から9歳まで東京に住み、アメリカンスクールに通っていました。週に何回か日本語を学び、近所の子供たちと遊んでいました。アメリカに帰国したとき、単語などは全て忘れておりましたが、今考えると発音や聞き取る能力がまだ残っていました。大学では日本語を副専攻として勉強していたので、簡単に発音や音の違いに気が付くことができました。JET参加者として日本に来日した時、ある程度の日本語は理解できましたが、まだまだ勉強が足りなかったため辞書を持ち歩いていました。1993年から1年間、埼玉県で小学校と中学校の外国語指導

助手（ALT）として働いていました。日本人の英語の先生と日本語で会話でき、大学で学んでよかったと思いました。その後は、JETの任期を終えてその夏アメリカに帰国し、ボストン市のシティズンズ銀行に就職しました。

～日本に戻った理由は何ですか～

私はずっと日本に興味がありました。シティズンズ銀行でやっていた仕事は楽しくて、面白かったですけど、私の中では本当に日本に戻りたいという気持ちで溢れていました。日本に戻り、最初の1年ぐらいは英会話学校で教えていました。その後、キャノンのグローバル人事マネージメント部で働き始め、後に、人事マネージャーにもなりました。これは素晴らしい経験で日本の大企業において、人生に関する様々なことを学びました。

～JETの経験も何か役に立ちましたか?～

もちろん、そう思います。キャノンのグローバル人事マネージメント部では、私は初めての外国人スタッフでしたが、すでに埼玉県栗橋町（現久喜市）でALTとして勤務した時に同じような経験をしてこうした環境に慣れていました。栗橋町では、初めてのALTということもあり、先生方や役場の方々にも大変喜んでいただき、私にとっても大学卒業後初めての就職であったため、忘れられない思い出となっています。

特にJETプログラムのおかげで日本の教育システムが、児童の人生にどのような影響を与えるの



栗橋東中学校で最後の授業日（1994年7月）

かを理解でき、特にその後のビジネスの場における影響も併せて理解できました。先生方との仕事や生徒に教えることも本当に楽しかったです。彼らは本当に元気いっぱいでした。私は5人の英語の先生と授業を行っていて、そのうち3人が同じ学校で2人は他の学校でした。先生方の性格や指導方法も異なっており、今の私にとってプラスになりました。その中に、今の私のトレーナーという仕事に大きな影響を与えてくれた先生がいました。その先生は英語を生きたものとして捉えるため、かつてやっていた演劇の経験を授業に取り入れていました。教育に関して抜群の先生でした。先生は私にあることを教えてくれました。それは「どんなに疲れていても、学校外でどんな問題があっても、教室に入れればすべて生徒のためにやる」というものでした。このような情熱や熱心さは私にとって大きなインパクトがありましたし、このような素晴らしいことを就職の早い段階で気付いたので、今の会社のクライアントに対しコーポレート・トレーナーとして現在活かすことができます。

～もしJET時代に戻ることができたら、どう違っていただいでしょうか～

もう1年いたでしょうね。一つは、地域の住民や学校でもっとイベントを作ればよかったと後悔しています。もちろん毎日きちんと仕事をやっていましたけど、もっと国際交流イベントなどを計画すればよかったなと思います。



小学校でランチ

～なぜそう思うのですか？～

そうですね、地域の方にもっと国際交流の機会を与えたかったです。これを通して私も地域の方々とお会いし、より関係を深められたかもしませんね。もちろん、今振り返って考えてみると色々な素晴らしい出会いがありましたが、もっとできると思いました。

～現役JET参加者に何かアドバイスや励ましのメッセージ等ありますか？～

そうですね。一般的に言いますと、日本にいる間の経験を最大限に活かした方がいいと思います。地域で活動することも重要で、例えば新しい食べ物や趣味、スポーツに挑戦することで、そこから関係が始まると思います。また、日本やアジアを旅行したほうがいいと思います。多くのJET参加者は1年から3年が過ぎると帰国または次の仕事に就職してしまいがちですが、JET参加者の人生にとって、重要な経験になると思います。もし日本での生活が充実していなかったら、何かもったいないと感じます。

また、もし日本に残ることを考えているなら、日本語の勉強を薦めます。私は日本語の基礎があったので幸運でした。将来日本での就職に日本語はかせません。

～本日は誠にありがとうございました～

Interview with Susan Iwamoto

CLAIR: Can you tell us about yourself?

SI: I first came to Japan because of my father's job. I lived in Tokyo from age 5 to 9 and went to the American School in Japan (ASIJ). I learned Japanese through classes a few times per week, and through playing with kids in the neighborhood. I forgot nearly all of my vocabulary after returning to the US, but I retained my pronunciation and listening ability. I minored in Japanese at university, and found I could distinguish the sound of Japanese words easily, though I'd forgotten their meanings. When I came back to Japan as a JET participant, I could speak Japanese to a certain extent, but I never left home without my dictionary. I was an ALT from 1993-1994, teaching primarily in junior high schools and occasionally in elementary schools in Saitama prefecture. I was able to talk to the teachers and Board of Education staff in Japanese which was helpful. I moved back to the United States in the summer of 1994 and soon found a job at Citizen's Bank in Boston.

CLAIR: What brought you back to Japan?

SI: I had been interested in Japan for such a long time anyway. My job at the bank had its merits, but I really wanted to return to Japan. So after a year and a half there, I decided to look for a job in Japan. I taught English at a conversation school for about a year, and then, thanks to my HR experience in Boston, I was hired by Canon to work in their global human resources management department, focusing on expatriation policy and management, and later on training and HR development. It was a wonderful experience and I learned a lot about life at a major Japanese corporation.

CLAIR: Did the JET experience help in any way?

SI: Absolutely. I was the first non-Japanese hired in Canon's HR division, and I had already experienced something similar as the first ALT to work in the town of Kurihashi in Saitama. The teachers and town hall staff were excited about it, as was I, especially as it was my first job out of college. It was a new and wonderful experience on both sides. The experience on the JET Programme provided me with an invaluable look at the educational system in Japan from the inside, and it really helped me understand the influence it has on Japanese people later in life, especially in business. And, of course, it was really fun to work with students. They were so full of energy! The teachers I worked with were great, too. I worked with three JTEs at one school, and two at the other. They all had distinct personalities, teaching styles and attitudes toward team-teaching. One teacher in particular had a huge influence on the way I approach my job as a trainer now. He was a former actor, and carried that sensibility to the classroom. He used his dramatic skills to make English come alive for the students, and he was incredibly devoted to education. One of things he told me was that no matter how tired he was or no matter how many problems that were going on outside of the classroom, he would leave that behind at the classroom door. Once he entered the classroom,

it was all about the students. His passion and dedication made a huge impact on me. I was fortunate to learn this early in my career, and is reflected in the way I interact with my clients in my work as an intercultural management trainer.

CLAIR: If you could go back in time to when you were a JET, what would you have done differently?

SI: I would have stayed another year. One of my regrets is that I didn't look for more opportunities to create more events with the community and the school. I certainly did what I was supposed to do, but I really wish I had been a little more active in creating more opportunities for international exchange.

CLAIR: Why do you think that would have been an addition to your experience?

SI: I think it would have created more opportunities for people in the town to have more exposure to internationalization. It would certainly have allowed me to develop more relationships with the people of the town. Of course, I met a lot of wonderful friends there, but looking back, I think I could have done more with my time there.

CLAIR: Do you have some advice/ final words for current JETs?

SI: In a very general way, to make the most of their experience here, whether that means getting more involved in the local community. I think that's the most important thing, but also making use of the opportunities to try out new food, sports and hobbies. I also recommend taking the chance to travel throughout Japan and Asia. Simply put, just be sure to make the most of the experience. Most JETs will move on after one to three years and either return home or go to a new country, but this is a valuable experience for their lives. It would be a shame if they were not really getting out there and experiencing it to the fullest. And, for JETs who are considering staying on in Japan, absolutely, positively study Japanese. I was lucky to have started with a base in the language, but having strong Japanese skills will be a great help in future job searches here.

CLAIR: Thank you very much for your time.

SI: Susan Iwamoto

英語